

総合的な学習の時間 指導改善のポイント ～「探究のプロセス」を重視する①～

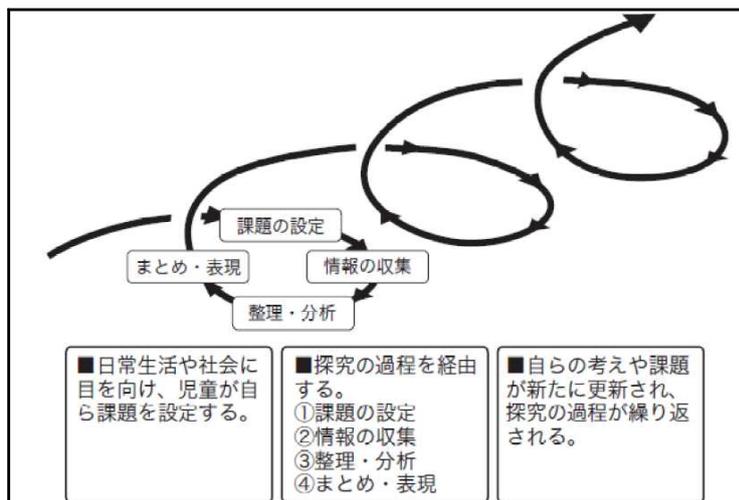
学習指導要領の趣旨を踏まえ、総合的な学習の時間の指導改善を図っていくにはどのようなことが大切か、そのポイントをおさえていきます。



総合的な学習の時間では、探究のプロセス「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」を単元や授業の中で繰り返し設定していくことが大切です。

1 「探究的な学習」とは

総合的な学習の時間における「探究的な学習」とは、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく下図のような学習活動のことです。



【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。

【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする。

【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。

【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

全国学力・学習状況調査においても、この「探究のプロセス」に関する質問があり、以下のように回答している児童生徒及び学校が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

【児童生徒】「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。

【学 校】 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をした。





例えば、国語科のB問題で、目的に応じて必要な情報を取り出したり、自分の考えとして表現したりすることは、この「探究のプロセス」で行っている学習活動に近い状況ですね。

では、それぞれのプロセスにおいては、どのような学習活動が考えられるか紹介します。

2 「探究のプロセス」の学習活動例

【課題の設定】

事例① 体験活動や資料を対比して課題を設定する

「河川の上流と下流の探検」など、体験活動を行いながら両者の違いを見いだしたり、「河川の上流と下流の写真」など、二つの資料を比較しながら疑問を引き出したりして課題を設定していきます。

事例② グラフの推移を予測して課題を設定する

「A市の観光客の推移」「米の消費量の推移」など、統計資料の推移に着目して今後を予測したり、問題点を見いだしたりしながら課題を設定していきます。

事例③ KJ法的な手法で課題を設定する

「A市のよさ（名所旧跡、食文化、名産品、方言、その他）」など、体験活動により生まれた気付きや疑問を、カードを活用してKJ法的に類型化しながら課題を設定していきます。

<進め方の例>

- 1 カード（付せん）一枚に対して一つの気付きや疑問を書く。
- 2 カード（付せん）を類型化する。
- 3 類型化したカード（付せん）にタイトルやキーワードを付ける。
- 4 タイトルやキーワードを基に話し合い、課題を設定する。

事例④ ウェビングでイメージを広げて課題を設定する

「各校で定める学年テーマ」を中心テーマとしてウェビングでイメージを広げ、完成したウェビング図を基に話し合いながら課題を設定していきます。

※ ウェビング・・・ある1つのキーワードから思いつく言葉を書き出し、くもの巣のように次々につなげ、連想を広げながら思考していく。

<進め方の例>

- 1 中心テーマを基にウェビングで自分のイメージを広げる。
- 2 完成したウェビング図を分析する。（同じ内容を線で囲んだり、関連するキーワードを線をつないだりする。重要な点に印を付ける。）
- 3 友達と比較しながらグループや学級の課題を設定する。

【課題の設定】は、一度行ったら終わりとするのではなく、「探究のプロセス」の中で繰り返し行いながら、スパイラルに課題意識を高めていくことが大切です。

※ 【情報の収集】、【整理・分析】、【まとめ・表現】については、引き続き次号で紹介していきます。



各事例の詳細については、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（平成22年11月 文部科学省）」をご覧ください。